

## 不確定性欲求の得点化マニュアル

A manual for scoring need for uncertainty

大 坪 靖 直

Yasunao Otsubo

(福岡教育大学)

(1997年9月10日受理)

本マニュアルは、不確定性欲求の判定基準と、判定の練習問題から構成されている。判定基準は、Sorrentino, Hanna, & Brouwers (1992) のマニュアルの翻訳であり、練習問題は日本で収集した反応例を筆者が得点化したものである。TATの実施と判定についての一般的な情報は、Smith (1992) を参照されたい。不確定性への志向性の最終的な得点は、不確定性欲求得点と Byrne & Lamberth (1971) の権威主義尺度得点 (Appendix 参照) との合成得点として算出される。不確定性への志向性については、Sorrentino & Short (1986) を参照されたい。

### 第1部 不確定性欲求の判定基準

不確定性欲求の投影法尺度は、その概念化において、不確定性を解消するモデルに関する Kagan (1972) の考え方に準拠している。また、達成欲求、権力欲求、親和欲求のために開発された測定法と類似した判定システムを利用している。判定手続きはこれら他の尺度と同様であり、Smith (1992) のアペンディックス I と類似している。

#### 主カテゴリー

Kagan (1972) は、不確定性の解消を根本的な動機と見なしている。すなわち、不確定性は、(a) 2つの認知間、(b) 認知と経験、あるいは、(c) 認知と行動、の不一致から生じると仮定している。また、Kagan は、未来を予測できないことが不確定性の主たる源泉であると示唆している。これらのカテゴリーは、リード文や絵に対して書かれた物語の中の不確定性イメージの存在を確認する基礎を提供している。

#### 不確定性欲求のイメージ (NI)

最初の判定作業は、不確定性の解決（あるいはアプローチ）を目標とする言及がその物語の中にあるか否かを判断することである。この目標は、

1) 「矛盾した考えや出来事、行動を克服したり理解したいという願望」、あるいは、2) 「予期できぬ未来を論じたいという願望、あるいは、意図」についての言及である。物語の中でその目標が達成されていなくても、その達成についての関心は、その物語の適切なイメージを判定する根拠となる。イメージ得点を与えるためには、以下の規準の1つを満たしておかなければならない。これらの規準は、不確定性が生じる源泉とは基本的に異なる。

**基準1：物語の中に、実現できるかどうか不確定な経験を望む明確な文がある。登場人物が、そのような経験にアプローチしようとしている。**

この規準を適用するためには、望んでいる結果についての疑いが物語の中に示されてなければならない。この疑念は、登場人物が未来に備えるためにどのような行動や思考を活性化させればよいか自信がないときに、明白に現れる。特に、この規準は、ある経験を試みても実現を阻止するような基本的に好ましくない環境にその疑念が向けられるときに、適用される。

未来に対する単なる疑念の記述だけでは不十分である。登場人物が、努力を通してその疑念を克服しようとしていなければならない。もし、未来が登場人物のコントロール下でない場合は、生じるであろう結果に正面から取り組もうとする意志を示す必要がある。しかし、ほとんどの記述では、

登場人物は未来に対する何らかの影響を持っているだろう。もし、登場人物がある経験を望んでいる場合は、その願望につながる活動にアプローチするか、その活動を始める決意が示されていないければならない。最も大切なことは、単なる疑問だけではこの動機を判定するのに不十分ということである。目標が実現されないときは望ましくない結果が生じようとも、登場人物は望んでいる経験にアプローチしようとしている必要がある。

**基準2：**登場人物が、わからない何かを理解しようとしている。

第2の規準は、より現在を志向していること、および、不確定な経験を望む明確な記述がないことを除くと、第1の規準と密接に関連している。登場人物が、ある存在や現象についての興味や疑問を明確に表し、その好奇心を満たすために説明を求めたり、もっと知ろうとしている物語に適用される。

**基準3：**登場人物が、2つの考えの不整合についての関心を示し、その矛盾を解決しようとしている。

この規準を適用するためには、登場人物が互いに矛盾する認知に対する関心を示しておく必要がある。登場人物は、解決につながる直接的な検証や質問、あるいは、それらの認知を調和させる統合的なアプローチを通して、その矛盾を克服しようとしてなければならない。

その不一致が否定されたり軽視されたり、あるいは、その問題が他のものにすり替えられている事例には適用してはならない。

不一致の源泉は、自分の特徴についての考えや、現実の世界に対する登場人物の図式（予想）に関連した考えだったりする。前者の例は自己概念に関連した矛盾であり、後者は理論の不整合から生じる科学的な興味である。

**基準4：**登場人物は、経験や出来事とすでに持っている図式との不一致に関心を示し、その不一致を解決しようとしている。

登場人物は、すでに持っている図式（予想）と矛盾する出来事に会っている。その出来事の源泉は、内的な（その人物に起因する）ものであったり、外的な（環境に起因する）ものであったり

する。登場人物がその矛盾に気づき、その矛盾を解決するように考えたり、行動したりしているときに、その物語は得点化される。

「図式」という用語は、願望や希望ではなく、予想や理論という意味である。例えば、登場人物が実現しなかった昇給を予期していた場合には矛盾が存在するが、かなわなかった昇給を希望していた場合には矛盾は存在しない。願望や希望は規準1の疑わしい結果として扱われる。

**基準5：**登場人物が、自分自身の行動と考えの不一致に対する関心を表現している。

考えや図式と行動間の単なる不一致では不十分である。登場人物はその不一致を克服しようとか何かを実際にしようとする意志を示しておかなければならない。矛盾と取り組もうとする真剣な試みがあるか、不一致を一致した望ましい形に変容させる行動を始めている必要がある。

### 疑わしいイメージ (DI)

不確定性の克服に関する言及はあるが、5つの規準のいずれかに達していないものは、疑わしいイメージとして判定される。不確定性イメージへのアプローチの存在が疑わしい場合に、DIと判定する。この疑わしさは以下の理由で生じるだろう。

不確定性が存在し、それを避けるわけではないが、それにアプローチしていないときに、DIと判定する。

イメージ得点の付与を支持する明確な形跡はあるが、異様な、あるいは、ばかばかしい結末の物語は、DIとして扱われる。しかし、その結末が物語り中の一風変わった前提から導かれたものならば、NIと判定する。

2分間ルール：もし、あなたがDIかNIか2分間考えても決めかねるときは、NIと判定して、下位カテゴリーの判定を取り止める。

### 無関連のイメージ (UI)

この分類は、物語中に不確定性の克服を目標とした言及がない、あるいは、以下の例に当てはまるときに、用いられる。

不確定性へのアプローチを含まない物語の文脈から推理されるような、きまりきった状況に登場人物がいて、結果に対する感情的な関心を明らかに

に示していないとき。

登場人物が不確定性へのアプローチを拒否、あるいは、積極的に回避しようとしているとき。

登場人物が不確定性の解決に向けて行動を始めた後に、その問題を放棄、あるいは、他の誰かに譲り渡しているとき。

他の誰かに頼まれて、あるいは、強制されて、不確定性へアプローチしているとき。

2分間ルール：もし、あなたがUIかNIか2分間考えても決めかねるときは、DIと判定される。

#### 下位カテゴリー

物語がDIもしくはUIに分類されたときは、これ以上の判定はできない。NIに分類されたときは、以下の下位カテゴリーについて検討する。

#### 克服への欲求の記述 (N)

登場人物が、不確定性へのアプローチや克服という目標に到達したいという願望を示しているとき、Nと判定する。多くの文が、「したい」「望んでいる」「希望する」「しようと決めた」という表現を含むだろう。これらの表現は、「知るために」「理解するために」という表現によってしばしば述べられている。要求を暗示するような疑わしい表現があるときは、「・・・を求める」という表現に置き換えて、類似したニュアンスがあるか否かを判定する。例えば、「人は答えを求め続けなければならない」は、「人は答えを求め続けることを求めている」に置き換えても、もとのニュアンスを保持している。

疑いや不一致を克服する目標に関連するような言及があるか否かは、慎重に判定しなければならない。不確定性の克服を目標とする欲求の記述は、それが既に達成されているものであっても、得点化される。判定者が要求についての言及の判断に自信が持てないときは、その願望が満たされたときにどのような目標が達成されるかを想像すればよい。もし、それが克服された不確定性の目標であるならば、その物語はNと判定される。

単に目標志向的な道具的活動であるからという理由から、要求を推測してはならない。物語の中に動機を示す明確な表現がなければならない。

各物語について、要求の得点化は1回しかできない。

#### 道具的活動 (I+/I?/I-)

この下位カテゴリーは、不確定性へのアプローチや解決という目標の達成に方向づけられた登場人物の外顯的な、あるいは、潜在的な活動をさす。望んでいる経験や疑わしい結果の生起確率を高くする活動がこのカテゴリーの例である。認知の不一致から生じる不確定性の場合、その不一致を解決あるいは理解しようとする活動が得点化される。「彼はその問題の答えを探している」という文がその例である。

道具的活動は、記述されている物語の結果に及ぼす正味の効果に基づいて、I+（効果あり）、I-（効果なし）、I?（疑わしい）に分類される。

このカテゴリーは、物語1つにつき1回だけ得点化される。もしも、2つ以上の活動があり、それぞれが異なる効果を持つときは、I?と判定する。

物語の最初あるいは最後にある活動は、習慣により、単なる状況や結果以上の論拠がない限り得点化されない。これは、最初の文の文末や、最後の文の文頭でよく起こる。

過去形や未来形の文では、過去の行動の結果や未来の結果以上の言及があるときのみ得点化される。

#### 目標予期 (Ga+, Ga-)

この下位カテゴリーは、登場人物が目標が達成あるいは失敗することを予期しているとき、すなわち、その目標について考えているときに適用される。成功か失敗についての考えが、必ず含まれている必要がある。

Ga+は、登場人物が不確定性を克服する目標が達成することによって生じる肯定的な望ましい結果について考えているときに、与えられる。望ましい予期の直接的な表現は、「彼は混乱を解決できると考えている」や「彼はこれがベストの決定だと思っている」である。

Ga-は、登場人物が最終的な結果について疑問をもっている、あるいは、目標達成の失敗や、その失敗によって生じる悪い結末を心配しているときに適用される。

これらの思考と、目標の達成方法についての道具的思考とは区別するよう注意しなければならない。

この下位カテゴリーは、物語に登場する中心人

物以外にも適用される。

Ga+とGa-は、1つの物語につき各1回得点化される。

#### 人に起因する障害 (Bp), および, 環境に起因する障害 (Bw)

これらの下位カテゴリーは、目標を志向した行動が何らかの妨害を受け、そこから生起する欲求不満が推測されるときに適用される。

Bpは、その障害が、自信や技術の不足といった登場人物に起因する、不確定性や疑念の克服についての以前の失敗や、現在の要因であるときに適用する。

Bwは、その障害が、他者の妨害のような環境に起因するときに適用する。

不確定性の源泉と、不確定性の解決を志向した活動を妨げている障害とは区別されなければならない。しかし、Bpは、不確定性の源泉でもある。しばしば、個人的短所は、不確定性の源泉であるとともに、その解決の障害となる。Bwは、源泉と障害の両方であることはない。

Bwは、最初と最後の文にでてくる場合は、得点化されない。

これらの下位カテゴリーは、各々、1物語につき1回しか得点化されない。

もし、障害のタイプに確信がもてないときは、Bwとする。

#### 援助 (Nup)

Nupは、不確定性を解決しようとしている登場人物を助けようとする人的な力が存在するときに適用される。この助力は、目標達成に直接的に関連していなければならない。

他者からの援助と、その問題を他者に渡すことは、区別されなければならない。後者は回避行動であるので、UIに分類される。

#### 感情状態：肯定的 (G+) と否定的 (G-)

これらの下位カテゴリーは、不確定性を解決する目標達成の成功あるいは失敗に関連した感情状態の記述に適用される。

主人公が、不確定性へのアプローチや克服に伴う安心、自信、満足などの感情を経験しているとき、G+が適用される。

目標到達の失敗や途中の障害に伴う抑鬱、失敗

感、不安の感情の場合は、G-となる。

達成予想に伴う感情と実際の達成に伴う感情は、区別されなければならない。

G+は、目標達成を試みているときに得点化される（例えば、「彼は、自分が勉強しているものに心を奪われている」）。しかし、目標を志向した直接的な行動に伴う感情文は、単なる道具的活動を越えるものでなければならない。

ときには、感情文はいきいきとして完全な結果から推測されたり、目標の達成や失敗に客観的に伴うものが非常に大きくて感情が明らかに含まれていたりする。しかし、このような例はまれである。

G+とG-は、1物語につき各々1回得点化される。

#### テーマ (Th)

認知や行動、事象の不整合の解決、および、望んでいるがそうなるかわからない未来へのアプローチが、物語の筋や中心部分を構成しているときは、テーマ得点が与えられる。換言すると、物語全体が不確定性の解決に含まれる行動の連続として作り上げられていなければならない。もしも、競合する動機の源泉（例えば、達成動機や親和動機）があるときは、テーマ得点は与えられない。テーマは表現されている動機の強さについての評定者の判断であり、競合する動機がないときにその動機は強いと仮定されている。

テーマ得点は、得点化されている下位カテゴリーの数とは独立に与えられる。ときとして、行動の結果を表す言葉が他の下位カテゴリーの得点規準を満たさないときは、NI、Thと判定される。逆に、多くの下位カテゴリーで得点化されていても、必ずしもテーマ得点を与えることはない。このケースは、最初の2、3行にそのイメージが現れているとき、あるいは、他の動機の源泉があるときである。

#### 得点化

物語の判定には得点が与えられる。UIと判定された物語は-1が、DIは0が与えられる。NIと判定された物語は+1が与えられ、さらに下位カテゴリー1つにつき+1が加算される。

### リード文と物語の判定例

私たちは、図版ではなくリード文を用いて、このマニュアルを開発し検討してきた。被験者は、以下の4つのリード文に、各4分間で物語を書くことを要求される（何が起こっていますか？この人たちは誰ですか？／どうしてこうなったのですか？この前には何があったのですか？／何を思っているのでしょうか？何を求めているのでしょうか？／この後、どうなるのでしょうか？）。これらのリード文は、多くのイメージと測定の安定性を考慮して選択されている。

- 1) 実験室で、2人の人が装置の前で作業をしている。
- 2) 1人の人が座って、「どうなるのだろうか」と思いにふけている。
- 3) 1人の若い人が立っている。その向こうには、手術中のようなランプがついている。
- 4) 年上の人、年下の人に話をしている。

リード文：実験室で、2人の人が装置の前で作業をしている。

#### 例1：

1. 実験室で作業をしている。一装置を用いて2人の人が。一1人は年長者で、もう一人は若い。
2. 新しい化学薬品についての実験が行われていて、前の実験からその必要性ができた。多くの動物が利用されている。
3. 年上の男は、実験がうまくいくことを願っているが、若い方は病気の特効薬について疑問を持っている。
4. 実験は成功したが、新たなアイデアが提案されて、さらなる実験が行われた。望みはつながったが、やることは残された。

「若い方は、・・・疑問を持っている」という記述があるので、この物語は疑わしい結果として判定される（規準1）。研究者は病気について関心を示しているので（特例覧参照）、現象へのアプローチとしても判定可能である。最終的な判定と得点は、NI, N, I+, Ga- = +4 である。

研究者の場合、特効薬を見つけるよりも、物を発明している物語の方が多い。これらの物語は同じ物と見なされがちだが、特例覧の違いの記述を参照されたい。

#### 例2：

1. 学生が実験室で物理の実験をしている。2人は1年生である。何をしているのかよく分からないでいる。
2. この学生たちは実験に精通し装置についてよく理解する前に、その装置を使っていた。そうするうちに、・・・
3. その学生たちは、与えられた時間内に実験をやり終えるにはどうすればよいかを考えていた。どちらの学生も、いそいでそれを済ませたいと思っていた。
4. 実験はうまくいき、彼らは実験レポートをしあげた。

ここには、疑わしい結果はあるが、NIと判定するにはあまりにもありきたりである。よくある「学校の」物語なので、UI = -1と判定される。

リード文：1人の人が座って、「どうなるのだろうか」と思いにふけている。

#### 例1：

1. この人（女性）、ブレンダは、深刻な問題について考えている。将来の仕事について。人生に何を求めているのか自問自答している。
2. これは、大学に入学したが、それが自分が期待していたものではないと気づいたことから、始まった。
3. 彼女は自分自身の関心を見つけないので、その目標を達成するためにどのくらい学校で勉強しなければならないかについて考えている。それは、看護婦になることだった。
4. 彼女は一生懸命に勉強し、素晴らしい成績と賞賛を得る。それは彼女が期待したものではなくても、彼女にとってうまくいくだろう。

彼女の大学での経験は彼女が期待していたものとく違うので（規準4）、この物語は、NI, N, I+, Bw = +4と判定される。たくさん勉強しなければならないことは、環境に起因する障害とみなす。

#### 例2：

1. その人は、おそらく惑星の表面にいる誰かだろう。その人は、窓際に座って外を見ている。
2. 核戦争は、いつもみんなの心の中にある。多くの妄想も。その時は近いように思える。
3. 何が起ころうか、起ころべき未来について

で考えている。しかし、その人は、その戦争は許されるのか、簡単に始まるのだろうか、考えている。

4. 何が起るかは決して重要ではない。なぜなら、椅子に座っている人は、すでに決心しているから。

「すでに決心している」は、確定性への欲求の例である。この物語は、 $UI = -1$  と判定される。

## 第2部 判定の練習問題

リード文1：ふたりの人が、実験室で装置を用いて作業をしている。

[1] この2人は化学の有機の実験をしている学生で、男2人でやっています。普通は5人です。実験なのですが、3人が休んでしまって2人になってしまったから。化学の実験で有機なので、時間がかかるため、早く色が変わってほしいと、思っていて、たいくつと思っていて、早く実験結果がほしい。やっとの事で予定通りの結果が出て、実験は無事終わりました。2人は喜んでいる。

[2] 大学の研究室で、卒論のための実験を行っている学生。その学生は卒論を書く本人とアシスタントとして手伝っている後輩。卒論の実験を実際に行うため、指示通りに装置を動かしている。卒論のきちんとしたデータを求めているが、きちんと一度でデータが出るのかなという不信を抱きながらも、できれば早く終えたいので、一度で……。結局、一度でデータは得ることができず、何度かこの実験を繰り返し、もう気づいたら夕暮れになっていた。

[3] 大学院生の理科の生徒（男2人）がいて、研究している。ピーカーからは煙が出ている。2人で今までにない新種のキノコを作ろうと話が盛り上がったため。何度も失敗しているけれど、今回、再挑戦している。楽しみながら研究している。おいしくて幸せな気分になれる新種のキノコ。できたキノコはおいしくて幸せになった。2人はこれを外国の貧しい国へ送ろうと喜び合うのだった。

[4] 実験している試験管の中の液体がブクブク泡立っている。理科の研究生。何か他の薬品を加えたから。別の液体があった（泡立ってない）。不思議に思っている。個体になるはずだった。ま

たもう一回やりなおして、成功する。

[5] この人たちは学者で化学の実験を行っている。この前には発表会があり、それで生じた問題点を解決するために実験している。問題解決も勿論だが、新発見を期待している。新しい発見をし、社会的、世界的に有名になる。

[6] 何かこの2人がやっている研究についての実験をしている。2人は物理学者またはその研究生。2人は自分たちが作った仮説に問題があることに気づいて、わからない点を解明しようとしている。この実験で結論が出ればいいと思っている。自分の仮説は崩れていいが、結論がほしいと思っている。結局、謎は深まるばかりで仮説は崩れ結論は出ない。2人はまた悩む。

[7] 新型の人型ロボット（等身大）作成中。アトムを作ったお茶の水博士とバック・トゥ・ザ・フューチャーのドックの2人。人類の英知の発達のために、2人が協力した。作ろうとしているメカの脳にあたる部分の神経の反応速度が人間よりも速いため、調整しようと考えている。ロボットに「心」を植え付けることを思い立った。お茶の水博士が新しいデータをプログラムして、より人間らしい心を持ったロボットが誕生した。

[8] 薬品会社の社員で新薬の研究をしている。年齢は若いので、まだ入社して3-4年目。ライバルの薬品会社が新薬の開発をしているとのうわさがあり、社長命令で新薬を作れと言われて研究している。どうにかして新薬を発明(?)して、会社での昇進をねらっている。結局、新薬はできずに2人は平社員のまま終わってしまうが、それはそれで平凡な幸せをつかむようになる。

[9] 2人は大学の医学部の研究者であり、今、脳の研究をしている。今まで知られていなかった脳の機能が発見されたから、それをもっと確かめようとしている。もう少しで、人がなぜ笑顔を作れるのが解明されそう。人に笑いが必要なのはどうしてなのかを彼らは知りたくてしょうがない。結局、すべてのことはわからなかったが、人がなぜうれしいときには笑顔になるのかは、自分たちにもわからない。でも大切なことだということはわかった。

[10] 化学の実験をしている。この人達は高校生

である。この人達は自分たちでいろんな実験をやったから。この前には化学の授業があった。実験の結果がどうなるのかドキドキしている。何かおもしろいことが発見できないかと思っている。実験はなかなかうまくいかず、納得のいかないまま終え、片づけて帰った。

[11] 新しい薬を作っていて、できる寸前で、興奮している。科学者。長い年月をかけた実験の日々。成功しうであるが、確信できないので緊張している。新薬は全世界の望みである。もちろん成功した。が、新たな問題が出てきてさらに新しいものが作られた。もちろんこの2人によって。

[12] 2人は男女の学生であり、恋人に近い関係。実験の結果予想について意見が対立し、実際にやっている。2人は結構研究熱心で、今まで2人とも意見が食い違うことはなかったから。お互い自分の考えが正しいと思っており、結果が自分の考え通りであってほしい。結局、2人の考えはどちらも違うものであった。2人は互いに謝り、後の実験へのステップとした。

[13] 授業の後に、友達同士で化学の実験をしている。2人は授業でどうしても納得できないことがあり、許可を得て実験をすることになっている。自分たちが納得のいく結果を求めている。実験は成功し、納得もでき、よいレポートも書けた。そしてまた2人で実験をしようとしている。

[14] 不老不死の薬を作っている。博士と助手。偉い人からの依頼が来た。何度も何度も失敗している。どうして不老不死の薬を作らないといけないのかと考えている。できれば作りたくない。不老不死の薬はできるができなかったと言って、依頼の人にお金を返す。

[15] 新しい薬を開発しようとしている科学者。いまだ治らない病気を克服するため。その病気の患者を助けられなかった。絶対に成功させてやるぞ。何か新しいアイデアはないか。失敗を繰り返しながらも、ついに新薬を発明する。

リード文2：ひとりの人が座って、「どうなるのだろうか」と思いにふけている。

[1] 何もかもうまくいかず、思い悩んでいる。自分。自分が、いろんなことを曖昧にやっていた

ために、総てのことがうまく行かなくなってしまい、どうしていいかわからない状況に陥っている。助言や助けを求めている。が、自分の情けなさに苛立ち、何もかもなくなってしまえばいいと思っている。わからない。

[2] この人は女性で、公園のベンチに座って自分の将来について悩んでいる。今まで、まともな人生を送らなくて、自分の人生を見つめなおしている。自分の身内をすべて事故でなくして、これから自分の行き場もなく、ただ呆然と未来について考えている。それまで家にもろくに帰らずに遊んでいた自分を悔やみ、もっと真面目に人生を送るべきだったと、幸せな家庭に戻りたいと思っている。その女の子のことを本気で思ってくれるとてもいい人が現れて、2人は結婚してとても幸せに暮らしている。

[3] 考えている。若い詩人。昔から、どうしてもわからないものがあって、ひたすらその問題の答えを探している。真実としての答えがあるわけがないことがわかっているのに、どうしても求めずにはいられない状態にある。何十年と答えを探し求めるが、見つからず、あきらめ始める。しかし、死ぬ間際になって、何かわかったような気持ちになるが、そのまま死ぬ。

[4] 両親が亡くなって悩んでいる女性。高校生くらい。両親は事故死。彼女は一人娘。親戚はいるが頼りたくない。大学に行きたいので高校は辞めたくないが、金はない。どうするか。バイトしながら高校通って、奨学金で大学へ行く。

[5] そんなつもりはなかったが、友人を殺害してしまったようだ。サラリーマンとその同僚にあたる友人である。些細なことから口論となり、思わずかっとなって、近くにあった灰皿で頭を殴ったところ、血を流し動かなくなってしまった。動いてくれ、目を開けてくれ、と思うと同時に、警察に連行される自分の姿を思い浮かべている。友人が……。思い切って、病院へ電話し救急車を手配してもらった。友人は一命をとりとめ回復したものの、2人の中は戻らなかった。

[6] 若い女性で、恋に落ちている。恋に落ちた彼のことをずっと考えている。道ばたでハンカチを落とし、それを拾ってくれたときにハッと思った。まずは友達から始めて、色々話をしてみたい。

彼のことなどを知りたい。偶然、道端で会って、それから少しずつ付き合い始める。

[7] 自分の人生(将来)について考えている。学生。自分のやりたいことが、いまいつかめず、これからどう生きて何をすればよいか、わからないから。自分が本当に何に興味を持って、やりたいことをみつけない。学校を卒業し、普通の平凡な生活を送る。

[8] 夜、一人でふと考え込む。自分。今が本当にあるのか。宇宙はどこまであるのか。死について。などの、答えのでない疑問。生命論の番組や授業の後、一人になるとその空間が不思議になる。考え込む。答えが出ないとわかっていながらも、考えずにはいられない。誰かに答えを言ってほしい。どーせムダだと止める。でも、また同じことをずっと繰り返していく。

[9] ある女の人が電車の中で物思いに耽っている。高校を卒業して大学に入学したばかり。仲の良かった友達と大学が離れてしまった。遠くで暮らすことになった。寂しくなるなあと思っている。早く夏休みにならないかと休みを求めている。毎日が平凡すぎ、休みになり友達に会いに行く。

[10] これからの自分の生き方について考えている人。いくつかの問題を抱えてもう一度自分のやり方を見つめ直している。自分が自信を持っていたことを揺るがすようなことに出会った。もう一度自分のやり方を信じたい。自分に自信を持ちたいと思っている。自分を優しくうけいれてくれる恋人のことを思っている。さんざん考え、悩み、落ち込むが、一晩ぐっすり眠る、もしくは、自分の好きな楽しいことをして一時的に解決する。

[11] 失恋して公園のベンチに座っている。女子高生。彼氏とけんかしてしまったから。その彼氏にふられてしまった。また元のようにになりたい。もう一度やり直したいと思っている。彼氏に謝って自分の意見を聞いてもらい、仲直りをする。

[12] 男性がベンチで物思いに耽っている。会社の転勤で、彼女と離れることになってしまい、そのことを彼女と話していてケンカした。彼女と別れたくないが、遠距離恋愛も不安があり、どうすべきか悩んでいる。彼女と話し合い、そのまま付き合い合っていくことにする。途中で分かれてしま

う。

[13] 一般の人でこれからの世界について不安を抱いている。政治、環境問題など。とにかくどうにかしようと思っているが、何からやり始めてよいかわからない。でも、どうにかしようと考えている。とても小さなことだけど、何か一歩を踏み出す。それが大きくあらわれることはまだ先だけど、着実に行動している。

[14] 待ち合わせをして待っています。男の人です。相手が来ません。先日、デートの約束をしていました。なぜこないのかと心配しています。事故にでも遭ったのかと。30分遅れてきました。2人でどこかに行きました。

[15] この人は自分で、将来のハッキリした夢がつかめずに悩んでいる。何かやりたいことを見つけないけど、見つからない。大学にはいる以前は、与えられたものだけをこなしていればよかったけど、大学は自分で自分の課題みたいなものを見つけなければならない。それに慣れていないために自分が出せない。自分が成功できる場面を想像することもできない。自分に何か自信を持てるものがほしいと思っている。自分に対してできるだけ努力は重ねていこうと思うが、やはり将来はわからないと思いつけている気がする。

リード文3：一人の若い人が立っている。手術のような光景が奥の方に見える。

[1] 若い人の婚約者が病気で手術を受けている。成功率30%で、若い人は今か今かと終わるのを祈りながら待っている。婚約者は幼い頃から持病があり、結婚を控えて思い切って手術することにした。若い人を心の支えにしながら。手術が成功してほしい。健康な体になりたい。早く2人でよかったねと笑い合いたい。成功して無事結婚。子どももできてよきパパ、ママになる。そして、この手術によって2人の絆は深まった。

[2] 手術をしなくてはならないけど、恐いのではないがっている。病気をしている人。タバコを吸いすぎたり、酒を飲み過ぎたため。病気を治したいと思っているが、勇気が出ない。手術しないですむ方法を求めている。看護婦さんや家族の説得で手術を受けることになる。そして病気は完治する。



〔3〕友人が交通事故で病院にかつぎ込まれた。トラックの運転手の不注意により事故に巻き込まれたため。友人の手術成功と回復。手術は成功するが回復に時間がかかり、この人が何日も見舞いに行き、やがて退院する。

〔4〕立っている若者は、手術される人間の分身である。生死をさまよっており、客観的に冷静に自身や周りの状況を見ている。この前には、何らかの大きな病になっていて……。自身の体に戻ろうか、それともこのままでいるか迷っており、できればあまり苦しんだり悩んだり、わずらわしい思いをしたくない。結局歯、体に戻り、普通に働き生活するようになる。退屈をもてあます。充実感が得られない。

〔5〕医師。これから手術を初めて行う。自分の父を病気で失い、自分も幼少の頃、体が弱かったので医師を目指す。いろいろな試験を乗り越えて、やっと自分で手術をするほどになり、これからも医師、患者間の信頼を作っていこうと思う。自分と同じ境遇の人を作り出さないように、一生懸命に仕事をする。

〔6〕この若い人は重い病気を抱えた人で、長い間、入院している。生まれたときからの病気で、毎日辛い日々を送っている。今までに何度も手術をしてきた。何度手術をしても自分の病気がよくならない。元気になって普通の生活にあこがれている。結局、長い病院生活も終え、息をひきとった。

〔7〕自分の代わりに手術を受けている。通りすがりの人に助けてもらったのだが、その人は助かる見込みなし。若い人は呆然と立っている。交通事故もしくは誘拐事件。若い人がフラフラ夜出回っていたから。若い人は罪の意識はない。しかし、どうにかしないといけないのではと思っている。この場を去ってはいけない気がする。手術した人は結局、死。若い人は自分の行動を考え直す。自分自身を見つめ直す。一生懸命に生きようと努力する。

〔8〕若い男はダンナで、奥さんの子どもを生む手術を見守っている。赤ちゃんができたため、この前には2人の楽しい日々があった。「早く無事に丈夫な子が産まれてほしい」と丈夫な赤ん坊を求めている。それと奥さんの体の無事。無事に生

まれて、また幸せな日々が続く。

〔9〕手術をするかしないか迷っている。ごく普通の人。タバコの吸いすぎ。かなりタバコを吸っていた。手術をしてもムダかなあとと思っている。生き延びたいと思っている。生きることを求めている。手術をしたが、結局2カ月後、ガンで他界してしまった。

〔10〕人体実験が行われている。立っている若者の細胞からクローン人間を作ろうとしている。地下でやっている科学者たち。科学者たちは、有名になりたかったから。クローン人間を作ったら、きっとノーベル賞だと思ったから。科学者たちは、名誉、名声、欲望に満ちている。若者は、どうなるだろうと不安でいっぱい。はっきり言って、できたらこわい。やっぱり失敗に終わる。クローンなんて作るの止めようなんて思わず、またやろうと決心する。若者、逃げる。

〔11〕移植手術が行われている。日本での手術が不可能だと判断され、若い父親はわずかな望みを託し、子どもとアメリカへと連れて……。心臓移植しか助かる道がないと宣告され、日本で法定化されていないと知った父親は、一人息子のため募金活動をし、……。成功したとしても生存率はわずか1-2年。それでも子どものためにできることは全力を尽くしたいと思っている。手術は成功。彼は多額の借金を背負うことになるが、後何年生きられるかわからない息子と共に頑張っていくのだ。

〔12〕この人は病院の医者で、大学を卒業したばかりの若い新米なんだろう。きっとこれから、この人が手術を執行しないとイケないんだと思う。彼は大学をとてつよい成績で卒業して病院にきたが、手術は初めのことで、緊張していると思う。手術がただ無事にすむように、ただそれだけを願っていると思う。今は自分が大学でしてきたことをただひたすら思い出して落ちつこうとしている。きっと手術は成功して、この人はこれからの医者生活によい自身を得、将来は名医になっているんだと思う。

〔13〕手術で、若い人はインターン。手術現場の見学。教授から、若い男は「君の希望していた手術が今日ある。行ってみるかね」と言われて、ここにやって来た。医者の手の動きや幹部の様子を

観察しながら、わずかに患者の安否を考える。手術が終わり、インターンは戻って、詳細にまとめてファイルに綴じる。そして、今後の予定を確認する。

[14] この人は魂で、奥で行われている手術を受けている人。交通事故。自分は生き帰るべきか、このまま死んでしまうべきかを考えている。死んだ方がよいと考えて、死後の世界に行ってしまう。

[15] 医学生が手術の見学をしている。手術が失敗しそうな状況。大学の授業の一環。手術に対する好奇心を持っていたが、手術の意味の深さを実感し恥じている。人間的に成長する。

リード文4：一人の人が考えている。その人の心の中には、分かれ道のイメージがある。

[1] これからの人生について、若い男が悩んでいる。男は美大を卒業したばかり。恋人がいるが自分の才能を信じて画家になるか、それともサラリーマンになって安定した収入を得て、彼女を幸せにするか……。『画家になるなら娘はやらん!』と彼女の父さんが言っている。どうすればいいんだろう。どうすれば彼女を幸せにしてやれて、自分も後悔しない人生が送れるか……。と考えている。結局、画家になり、才能が開花され、彼女と晴れて結婚! めでたし、めでたし。

[2] 大学生の女の人が自分の部屋に座って考え込んでいる。将来のことを考え、どういう風に進んでいくか迷っている。新学期になり新しい時間割を決めなければならない。しかし、自分の将来の方向性が見えなくなりどういう風に決めるか迷っている。「この先、一体、自分が何をしたいのか」と考えている。早急に結論を出したいと思っている。結局、あまりはっきりとは先が見えず、今できる精いっぱいのことを考え時間割をたてる。もっとよく考えようと思っている。

[3] この人は大学進学を控えた人で、行きたい2つのまったく異なる大学の間で揺れている。センターテストがあり、思ったより悪い結果になってしまった。よければこれにしようときめていたが、ひたすらこの2つの大学で揺れている。浪人はいやだと思ふ反面、浪人してでも決めていた大学に行くべきか悩んでいる。結局、親の説得もあり金銭的な面で決めていたのとは違うもう一つの

大学に行くことにした。

[4] 大学進学を控えた高校生で、どちらの大学を受けようかと悩んでいる。行きたい方に自分の実力で受かるかどうかかわからないし、先生に言われた方は実力的に受かるが行きたくないから。どちらを受けるか答えを出すこと。行きたい方を選ぶのが失敗し、一浪してまた挑戦する。

[5] 職業選択をせまられた20代のOL。大学を卒業して、どこでもいいからと会社に入ったが、毎日お茶くみやコピーで人生に疲れはてて、会社がいやになった。会社はいやだけれど、毎日平凡な人生が送れて、結婚も早くできそうだから、やはりやりたい仕事があり、でもその仕事をするにはもう一度大学に行かなければならないと迷っている。大学に行き直し、自分のなりたい仕事について、日々充実した生活を送る。

[6] 本当は彼女がいるのに浮気してしまい、どちらを取ろうか迷っている。この男のほんの出来心。どちらを選ぶかに迷い、どちらも傷つけないような解決を求めている。結局、どちらにも決めることができず、時間がどうにかしてくれるさっ、と現実から逃げ出してしまう。

[7] 私の友達。このまま今のことを続けるか、新しいことに挑戦しようか迷っている。今の状態に不満を感じ始めた。仕事などで失敗した。やっぱり不向きかなと思うようなことがあった。ただのスランプで、一時的なものだろうという気持ちと、いやいやここで見限って別のことをやった方がいいかもという気持ちがあって、自分でもよくわからない。誰かに相談したい。もうしばらくとどまってみる。けど続ける気はしない。

[8] この人は受験生で、これからの進路について考え込んでいる。自分の進みたい進路と親の考えているのが違い、親とそのことで対立し、親子喧嘩までしてしまい、先生などいろいろなアドバイスなどしている。自分は、自分のやりたいことはやりたいが、親が認めてくれない。どうしていいかわからず、悩みまくっている。でもやっぱり自分のやりたいことをやりたいと思っている。必死に親を説得して、親にも認めてもらい、はれて自分の好きな進路を選ぶことができ素晴らしい人になった。

[9] 大学受験を1年後に控えた高校生が進路について悩んでいる。親たちの期待に応えるために、行きたくない大学へ行くか、自分の夢に向かって進むか。自分の人生を決めるのも生きるのも自分、受験するのも自分なんだと、自分を奮い立たせようとしている。親を、ぎりぎりまでかかって説得し、自分の行きたい大学への進学を決め、いきいきとした人生を送り、満足している。

[10] 仕事をとるか結婚するかで悩んでいる働き盛りの女性。付き合っていた人にプロポーズされたが、家庭に入ってほしいと言われた。結婚したいが仕事もしたい、両立するのは無理なのか。結局、仕事を選ぶが、その後理解ある男性が現れる。

[11] 大学受験を控えた若者で、地元に残るか地元を出るか迷っている。もともと外に出たかったが、いざそういう場になると地元の良さが見えてきたり、外に出る不安がでてきて迷うはめになった。自分を大きくするためには、外に出るのがよいとわかっているが、不安が大きく、この不安を取り除いてしまいたい。思い切って外に出る

ことを決意し、力強く大学生活を送る。

[12] 将来について迷う小学生の女の子。どうしてこれからを過ごすか、早くも悩んでいる。大きな不安がある。別に何もない。だけど、昔からこの子の中に大きな不安として存在していた。自分の能力がどの程度なのかかわからず、とても不安に思っている。自分で自分を認めれるところを求めている。まだ、迷う。長い間迷う。でも、少しずつ経験を通して、いろんな人と出会って、自分を正確につかめるようになると思う。

[13] 何かを選択しようとしているが、決まらないうる。この人は若者である。ものすごい葛藤が起こっている。人生を考える年頃になったからだ。今までは遊びほうけていたのだが、父にしかられてわかった。将来のことを思っていて、一番いい方向を探し求めている。何らかの答えが出、それに従う。迷いはあったものの、この人なりに満足できる人生になった。

[14] 学校の先生に、あなたじゃこの志望校は無理、と言われた。でも、私の心の中では将来なる

表1 不確定性欲求得点

	リード文1		リード文2		リード文3		リード文4	
1	UI	-1	DI	0	NI, Bw, Nup	3	NI, Bw, N	3
2	UI	-1	NI	1	NI, Nup	2	NI, N	2
3	NI, Bw, G+	3	NI, N, I, G-	4	UI	-1	UI	-1
4	NI	1	NI	1	UI	-1	NI	1
5	NI	1	NI, I	2	NI, Bw, Ga+	3	NI	1
6	NI, N, Bw	3	UI	-1	NI, Bw	2	UI	-1
7	NI, I+	2	UI	-1	NI	1	UI	-1
8	UI	-1	NI, N	2	UI	-1	NI, Nup, N	3
9	NI, Ga+, N	3	UI	-1	NI	1	NI, I+	2
10	UI	-1	NI, I, G-	3	NI, Bw	2	UI	-1
11	NI, Ga+, G+, G-, Bw	5	UI	-1	NI, Bw, I+, N	4	NI	1
12	NI	1	NI	1	NI	1	NI, G-	2
13	NI	1	NI, N, I	3	NI	1	UI	-1
14	UI	-1	UI	-1	UI	-1	NI, Bp, Nup	3
15	NI, N, I+	3	NI, I, Ga-	3	UI	-1	NI, Bw, Nup	3

ものが決まっている。一生懸命に努力はしているが、要領が悪くうまく成績を伸ばせなかった。なんでこうなるんだろうと、自分の要領の悪さに気づいていない。この人は、成績の良い友達に助けられて無事に志望校に合格するが・・・。

[15] この人は先月神奈川の某私立大学に入学した私の友達。入学した方がいいが、校風と友達になじめず、早くもやめたがっている。おしとやかな

性格の彼女は自分から話しかけたりすることができず、友達が少ない。見知らぬ土地で知り合いもおらず、かなりホームシック。「帰ってこい」という父。しかし、ここでやめると、自分はダメになることをわかっており、今、心の中で2人の彼女が争っている。故郷の友達の励ましで、どうにか持ち直した。少しずつ友達もでき、夢に向かってもう一度！

#### 引用文献

- Kagan, J. 1972 Motives and development. *Journal of Personality and Social Psychology*, 22, 51-66.
- Smith, C.P. 1992 *Motivation and personality: Handbook of thematic content analysis*. New York: Cambridge University Press.
- Sorrentino, R.M., Hanna, S.E., & Brouwers, M.C. 1992 A manual and practice materials for scoring need for uncertainty. *Reserch Bulletin #703*, Department of Psychology, University of Western Ontario.
- Sorrentino, R.M., Hanna, S.E., & Roney, C.J.R. 1992 A manual for scoring need for uncertainty., In C.P. Smith (Ed.) *Motivation and personality: Handbook & thematic content analysis*. New York: Cambridge University Press, Pp.428-439.
- Sorrentino, R.M. & Short, J.C. 1986 Uncertainty orientation, motivation, and cognition., In R.M.Sorrentino & E.T.Higgins (Eds) *Handbook of motivation and cognition: Foundations of social behavior*. New York: Guilford Press, Pp.379-403.

## Appendix：権威主義尺度

このアンケートの目的は、社会的および個人的に重要な問題について、一般の人がどのように思っているかを調べることです。以下の意見について、あなたがどう思うのか、あなたの考えを応えて下さい。

いろいろな意見を取り上げたので、中には対立するものもあります。あなたが非常に賛成する意見もあれば、強く反対するものもあるでしょう。また、どちらか決めかねる意見もあるかもしれません。それぞれの意見について、あなたが賛成であろうと反対であろうと、あなた自身の考えや感じ方にしたがって応えて下さい。

以下の要領で、あなたの考えに最も近い数字に○をつけて下さい。

+1：少し賛成	-1：少し反対
+2：賛成	-2：反対
+3：非常に賛成	-3：非常に反対

1. 両親への愛、感謝、敬意を強く感じない人ほどいやしい人はいない。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

2. 名誉を傷つけたら、かならず罰せられるべきである。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

3. 本や映画は、人生の暗い側面や不愉快な側面をそれほど多く扱うべきではなく、人々を楽しませたり気分を高める話題を扱うべきである。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

4. 若者にとって最も必要なものは、厳格な規律と強い決心、そして国家と家族のために働き、戦う意志である。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

5. 分別がなく礼儀しらずの人は、親友や身内を傷つけようと思うことがあるかもしれない。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

6. 若者はときどき反抗的な考えを抱くことがあるが、成長するにつれ、そのような考えを克服し、落ちつかなくてはならない。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

7. 私たちがとても大切にしている信念の多くが間違いであることを、科学はいつの日か証明するかもしれない。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

8. 私たちの生活様式に反すると思われる新しい考えであっても、私たちはその新しい考えにより多くの注意を払うべきであろう。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

9. 人々がおしゃべりを止めてもっと働けば、人々の暮らし向きはいっそう良くなるだろう。

非常に賛成    +3      +2      +1      -1      -2      -3      非常に反対

10. 行儀が悪く、悪い習慣が身についており、躰のなっていない人が、礼儀正しい人たちとうまくやっていくのは難しいだろう。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

11. 名誉を傷つけられても、かならずしも思い悩むとは限らない。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

12. たとえとても厳肅なことがらについてでさえ、疑問を提起してもかまわない。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

13. 権威に対する服従と尊敬は、子どもが学ぶべき最も重要な徳である。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

14. どんな犯罪でも死刑を適用する根拠はない。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

15. 聖書を文字どおりに読むような人は、地質学や生物学、歴史学についてよく知らない。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

16. この科学の時代において、宗教的信念の必要性が以前にもまして重要である。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

17. 子どもは、小さいとき、親に危害を加えようとすることがある。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

18. 他の惑星の生物は、私たちよりもよい社会を建設しているかもしれない。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

19. 矯正施設にいる犯罪者は、犯罪の内容に関わらず、人間らしく扱われるべきである。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

20. 行政にかかわるすべての裏切り物を排除しなければならないことに早く気付けば、私たちの暮らし向きはいいそう良くなる。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

21. 歴史上の最も残虐な行為には、宗教や道徳の名の下に行われたものがある。

非常に賛成 +3 +2 +1 -1 -2 -3 非常に反対

注) 項目番号のアンダーラインは、その項目が反転項目であることをさす。